

## プログラマー勉強会 第四回

### 1. 背景をつける

宣言

```
//敵の情報いろいろ
...

//背景の情報いろいろ
int back_y;
int back_g = LoadGraph("Data/back.bmp");

//ゲームの情報いろいろ
int score;
```

初期化

```
//-----ゲームの処理をする-----
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の処理をする
if (mode == 0) {
    if (key_z == 1) {          //Z キーが押されたら画面をタイトルからメインへ
        ...
        back_y = 0;
        score = 0;
    }
}
```

実行すると、止まったままの背景が表示される

描画する

```
//-----ゲームの描画をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の描画をする  
if (mode == 0) {  
    ...  
}  
//変数「mode」が1ならば、メイン画面の描画をする  
else if (mode == 1) {  
    //背景を描画  
    DrawGraph(0, back_y, back_g, TRUE);  
    DrawGraph(0, back_y - 2400, back_g, TRUE);  
    ...  
}
```

注意： 背景は必ず一番初めに描画する

表示する順番を間違えると・・・

## 2. 背景を動かす

```
//-----ゲームの処理をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の処理をする  
if (mode == 0) {  
    ...  
}  
//変数「mode」が1ならば、メイン画面の処理をする  
else if (mode == 1) {  
    //登場している敵を動かす  
    for (i = 0; i < MAX_ENEMY; i++) {  
        ...  
    }  
  
    //背景を移動させる  
    back_y += 5;  
    if (back_y >= 2400)  
        back_y -= 2400; //背景のループ  
  
    //敵と弾丸の当たり判定  
    ...  
}
```

実行すると、ちゃんと動いている背景が描画される

## 応用

### 1. 変数をひとまとめにする

プレイヤーの変数は、こんなにたくさんある

```
//プレイヤーの情報いろいろ
```

```
int player_x, player_y, player_life, player_xsize, player_ysize;
```

```
int player_safetime;
```

→ もっとゲームを展開していくとなると、さらにたくさん変数が必要になる

→ 変数が多くなって、管理が大変になってしまう

→ 「構造体」を使う

構造体：C 言語が持つ機能。

異なるデータ型 (int や char など) を含む複数の変数をまとめることができる。

プレイヤーの情報を構造体でまとめる

```
struct character {  
    int x, y, life, xsize, ysize;  
    int safetime;  
};
```

こう書くと、「character」という複数の変数がまとめられた構造体がつくられる

つくった構造体を使って、変数を宣言する

```
character player;
```

「int ~」「char ~」など、元々C言語にあるデータ型を使った変数の宣言と同じように宣言できる

変数 `player` の中には、`int` 型の「`x,y,life...`」が詰まっている

それらを使う方法：「構造体で宣言した変数名」.「中に詰まっている変数名」

例：

```
player.x = 0;
```

実際に構造体を使って改造してみる

まずは、構造体を宣言する

```
//ループ用の変数
```

```
int i, j;
```

```
struct character {  
    int x, y, life, xsize, ysize;  
    int safetime;  
};
```

```
//プレイヤーの情報いろいろ
```

いらなくなった変数の宣言を削除する

```
//プレイヤーの情報いろいろ
int player_x, player_y, player_life, player_xsize, player_ysize;
int player_safetime;           //ダメージを受けないセーフタイム
...
//弾丸の情報いろいろ
int shot_x[MAX_SHOT], shot_y[MAX_SHOT], shot_life[MAX_SHOT],
    shot_xsize[MAX_SHOT], shot_ysize[MAX_SHOT];
...
//敵の情報いろいろ
int enemy_x[MAX_ENEMY], enemy_y[MAX_ENEMY], enemy_life[MAX_ENEMY],
    enemy_xsize[MAX_ENEMY], enemy_ysize[MAX_ENEMY];
...
```

画像用の変数など、構造体でまとめていない変数は消さないように注意する

構造体を使って、今消した変数の代替を宣言する

```
struct character {
    int x, y, life, xsize, ysize;
    int safetime;
};
```

```
character player;
character shot[MAX_SHOT];
character enemy[MAX_ENEMY];
```

おそらく大量にエラーが出始めたはずなので、あちこちの変数を正しく書き換える

```
//-----ゲームの処理をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の処理をする  
if (mode == 0) {  
    if (key_z == 1) {          //Zキーが押されたら画面をタイトルからメインへ  
        mode = 1;  
        //ゲームに必要な情報を初期化していく  
        player.x = 200;  
        player.y = 420;  
        player.life = 5;  
        player.xsize = 40;  
        player.ysize = 40;  
        player.safetime = 0;  
        shot_trigger = 0;  
        for (i = 0; i < MAX_SHOT; i++) {  
            shot[i].x = 0;  
            shot[i].y = 0;  
            shot[i].life = 0;  
            shot[i].xsize = 0;  
            shot[i].ysize = 0;  
        }  
        for (i = 0; i < MAX_ENEMY; i++) {  
            enemy[i].x = 0;  
            enemy[i].y = 0;  
            enemy[i].life = 0;  
            enemy[i].xsize = 0;  
            enemy[i].ysize = 0;  
        }  
        ...  
    }  
}
```

こんな感じで、ほかのエラーが出ている部分を全て書き換える

書き換える法則としては、

player_x	→	player.x
shot_life[i]	→	shot[i].life
enemy_xsize[i]	→	enemy[i].xsize

のようになる

全て書き換えるのはちょっとめんどくさい・・・

→ visual Studio には、文字列の置換機能がある

検索する文字列を「`player_x`」とし、

置換後の文字列を「`player.x`」、

検索対象を「現在のプロジェクト」にして右下の「すべて置換」ボタンを押す

→ `Source.cpp` 内の全ての「`player_x`」という文字列が、  
「`player.x`」に置き換わった

実行して、今まで通り問題なく動作したら改造完了

## 2. 関数を使ってみる

Source.cpp の一番上

```
#include "DxLib.h"

#define WINDOW_XSIZE 640
#define WINDOW_YSIZE 480

#define MAX_SHOT 30
#define MAX_ENEMY 50

void TestMessage() : //関数のプロトタイプ宣言

int WINAPI WinMain(HINSTANCE hI, HINSTANCE hp, LPSTR lpC, int nC) {
    ...
}
```

Source.cpp の一番下

```
...
DxLib_End();
return 0;
}

void TestMessage() {
    DrawString(0, 0, "Shooting Game!!", GetColor(255, 255, 255));
}
}
```



で、メイン画面の描画で・・・

```
//-----ゲームの描画をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の描画をする  
if (mode == 0) {  
    ...  
}  
//変数「mode」が1ならば、メイン画面の描画をする  
else if (mode == 1) {  
    ...  
    DrawString(460, 100, "life", GetColor(255, 255, 255));  
    for (i = 0; i < player.life; i++) {  
        DrawGraph(480 + i * 25, 120, plife_g, TRUE);  
    }  
    TestMessage();  
}
```

実行すると、左上に「Shooting Game!!」と表示されるはず

今度は、タイトル画面とゲームオーバー画面でも TestMessage()と書いてみる

```
//-----ゲームの描画をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の描画をする  
if (mode == 0) {  
    //文字を描画する  
    DrawString(20, 20, "タイトル画面", GetColor(255, 255, 255));  
    TestMessage();  
}  
//変数「mode」が1ならば、メイン画面の描画をする  
else if (mode == 1) {  
    ...  
    TestMessage();  
}  
//変数「mode」が2ならば、ゲームオーバー画面の描画をする  
else if (mode == 2) {  
    DrawString(20, 20, "Game Over", GetColor(255, 255, 255));  
    DrawFormatString(20, 100, GetColor(255, 255, 255), "Total Score : %d", score);  
    TestMessage();  
}  
}
```

異なる画面のはずなのに、全く同じ文字列が出力される

関数： 処理を別の場所に分けて描くことができる機能  
複数回呼び出すと、同じ処理がその場で行われる

### 3. ファイルの読み書きをする

C 言語では、テキストファイルなどにデータを書き込むことができる

今までの最大スコアを保存する機能をつける

```
//ゲームの情報いろいろ
```

```
int score;  
int max_score = 0;
```

ゲームオーバー画面からタイトルに戻った時、最大スコアが更新されるようにする

```
//-----ゲームの処理をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の処理をする  
if (mode == 0) {  
}  
//変数「mode」が1ならば、メイン画面の処理をする  
else if (mode == 1) {  
}  
//変数「mode」が2ならば、ゲームオーバー画面の処理をする  
else if (mode == 2) {  
    //Zキーが押されたらタイトル画面に戻る  
    if (key_z == 1) {  
        mode = 0;  
        //もし今回のスコアが最大スコアより高ければ、最大スコアを更新  
        if (score > max_score)  
            max_score = score;  
    }  
}  
}
```

最大スコアをタイトル画面に表示する

```
//-----ゲームの描画をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の描画をする  
if (mode == 0) {  
    //文字を描画する  
    DrawString(20, 20, "タイトル画面", GetColor(255, 255, 255));  
    DrawFormatString(20, 60, GetColor(255, 255, 255), "最大スコア : %d", max_score);  
}
```

最大スコアが表示されるようになったが、

アプリケーションを終了すると0に戻ってしまう

ファイルに保存する

```
//-----ゲームの処理をする-----  
//変数「mode」が0ならば、タイトル画面の処理をする  
if (mode == 0) {  
}  
//変数「mode」が1ならば、メイン画面の処理をする  
else if (mode == 1) {  
}  
//変数「mode」が2ならば、ゲームオーバー画面の処理をする  
else if (mode == 2) {  
    //Zキーが押されたらタイトル画面に戻る  
    if (key_z == 1) {  
        mode = 0;  
        //もし今回のスコアが最大スコアより高ければ、最大スコアを更新  
        if (score > max_score)  
            max_score = score;  
        FILE *wf;  
        fopen_s(&wf, "Data/max_score.txt", "w");  
        if (wf != NULL) {  
            fwrite(&max_score, sizeof(int), 1, wf);  
            fclose(wf);  
        }  
    }  
}  
}
```

max\_score.txt に、最大スコアが書き込まれるようになった

ゲーム開始時に読み込む

```
//ゲームの情報いろいろ  
int score;  
int max_score = 0;  
  
FILE* rf;  
//ファイルを読み込む  
fopen_s(&rf, "Data/max_score.txt", "r");  
//ファイルの読み込みに成功したら、そこから値を読み込む  
if (rf != NULL) {  
    fread(&max_score, sizeof(int), 1, rf);  
    fclose(rf); //ファイルを閉じる  
}  
  
//メインループ  
while (ProcessMessage() == 0 && CheckHitKey(KEY_INPUT_ESCAPE) == 0) {  
    ...  
}
```

max\_score.txt から、最大スコアが読み込まれるようになった

これで、アプリケーションを終了しても最大スコアが 0 に戻らなくなったはず